

「とちぎの子ども育成憲章」の実践

活動名	平成23年度上都賀地区青少年行政地域連絡会議（青少年指導員等研修会）		
年月日	平成23年6月20日（月）	場所	鹿沼市民情報センター
参加者	上都賀地区青少年育成対策連絡協議会	人数	38名

関連する憲章の条文

一人ひとりが 子どもたちの手本となるよう行動します

この会議は、青少年の健全育成に携わる関係者が、それぞれの活動で得た情報や、指導・育成に関する意見を交換して、青少年の現状についての理解を深めるとともに、緊密な連携を通して、青少年施策の効果的な推進を図ることを目的として開催しました。

~~~~~

常磐大学准教授 {越谷心理支援センター所長（臨床心理士）} 秋山邦久氏をお迎えし、「現代の子どもたちを取り巻く現状と支援のあり方について」というテーマに沿って講演会を開催しました。講演内容は次の通りです。

### 【講演内容】

#### (1) 臨床心理士（心理判定員）の仕事

赤ちゃんからお年寄りまですべての人が、自分や周りにいる人の心（気持ちや精神）や行動の事で悩んだり困った時、また、今は特に困っていないけれどもっと良くなりたく、あるいは良い状態をずっと続けたいなどと思ったときに、現代心理学の知識と技術でお手伝いいたします。

#### (2) 具体的相談内容

子どもについては、発達の遅れ、障害、不登校、いじめ、非行・犯罪、進路、集団不適応、性の悩みやトラブル、問題行動など多岐にわたります。

#### (3) 現代家族の諸問題

夫婦間の問題、親子間の問題、育児・子育て問題があります。次の項目が具体的な事例です。

①DV（ドメスティック・バイオレンス）

②離婚

③児童虐待

④高齢者虐待

⑤嫁姑問題

⑥親殺し

⑦育児ノイローゼ

⑧不登校、引きこもり、ニート

#### (4) 子どもの声が聞こえない、大人の声が届かない現実があります。

①急激な社会変化：生活圏の拡大とスピード化が起きています。

②超情報化社会と価値観の多様化：すれ違いが起きます。

③10～20年前と変わらない大人の対応

・伝え合う「ことば」を持たない大人たちがいます。

・文脈が読めない大人と子どもがいます。

・価値観のズレが問題行動に現れてきます。

④きれいごと文化の弊害

・明るすぎて、逆に見えなくなるものがあります。：妖怪と子どもの心

・「もやしっ子」教育と「生きる力」を育てる教育の矛盾があります。：鼻血のない学校

・感情表出が抑制されています。：「くそったれ!」「馬鹿野郎」「死んじまえ!」って思ったり言ったりすると叱られる

・不快を知らなくなっています。：闇があるから光のありがたさを感じるのに

・親への隠し事がなくなっています。親に隠し事をしながら、子どもは自立するのに

講演会の様子



## (5) 現代社会で求められる能力と家族

→コミュニケーション能力が大切

### ①伝えることの大切さ (内容と文脈)

・「いつ、どこで、誰が、誰に、何を、どのように」話しているのか

### ②表現の大切さ

・親子でも、意識的に「ことば」や「表情」で表現しないと分からない  
(但し、お互いに聞いてもらえる努力が必要)

### 【講演会を聞いて (学習になったこと)】

- 子どもとの対話では話を合わせる事が重要。年配の方々の話は聞くものだという『常識』は通じない時代になっているが、当の大人がそれに気付いていない。その常識にこだわるというのはすなわち、大人が子どもを話理解しようとしていないということである。
- 子育ての問題が叫ばれる今日だが、老人の知恵があれば子どもは勝手に育つ。しかしその知恵が次世代に伝わっていない。そして老人世代はそれに気づいておらず、「今の若いやつは…」などと言ってしまふ。
- 知恵が伝わっていないことに気づいていないのは社会の変化に気づいていないから。それに留意せずに伝わったと思込んでいる。しかしそれは若者・老人どちらが悪いというものではなく、時代がそうさせている。
- 聞こえのいい言葉ほど役に立たない、立たなかったことを自覚すべきである。
- いい言葉を言えば伝わると思っているのだが、そんなわけがない。虐待者に愛をもって接してあげると精神論をふっかけても、そんなことを言ったら余計に悪化するだけである。
- 心から入るより形から入るほうがよっぽどいい。例として剣道・柔道・書道・茶道などを考えてもらえば他言を待たないだろう。俳優の柳場敏郎は都会東京から母のいる田舎の故郷に家族で戻り生活するにあたり、何をするにも声に出した(会話を形から始めた)。そうするうちにギクシャクしていた家族の中にも会話が生まれ始めたという(形から入ったことで心を変えることができた)。
- 心が変われば行動が変わり、環境が変わるのではなく、実際は、環境が変わり、行動が変わることで、心が変わるのである。

### 【グループ討議】

青少年の現状について、3グループに分かれ、学校関係者、警察署生活安全課職員、青少年育成関係者(青少年育成指導員、市民会議、保護司、民生委員・児童委員、主任児童委員、PTA指導者、女性団体等)、それぞれの立場で情報交換を行いました。

次のような意見がありました。

- ピアスなどをつけている、いわゆる不良の若者がいても本当にその人の気持ちになれるのかが勝負だと分かった。
- 学校は生徒の将来を考えて甘い処分に落ち着きがちだが、逮捕(厳罰)を経て身にしみた例はいくらでもある。
- 発達障害など、分かりにくい例が増えている。実例として、親は普通の子供だと思っていたが、18歳になって初めて中度の知的(B1レベル)を見つけた例がある。親も認めたがらないが、そういう子供として育てられるのとそうでないのでは、将来的に影響が出てくるのではないだろうか。発達障害などで社会になじめず、ドロップアウトする例も聞いている。社会の理解がないからだろうか。また、特別支援学級はきちんと設けられているのだから利用すべきであろう。発達障害に関連して、多動性の子供などへも、対応できるような体制作りが大切ではないかと思う。
- 民生委員、主任児童委員と生徒の話し合いの場を作る必要がある。現状では、話し合いができる機会がない。
- 不登校問題が深刻。誇りをもって学校に入ってきたものの、入ってから自分を見失い、自信を喪失する例が多い。
- 虐待に対しての学校の問題点は、子どもへの指導だけでなく、保護者への指導も関わる点がネックである。

グループ討議

